

西濃農林事務所の普及活動状況

平成31年1月31日現在

今月の重点活動

■なし 後継者・担い手育成～第5回「梨塾（最終回）」を開催～

1月21日、大垣市曾根町において大垣市ナシ生産連絡協議会の主催により、梨生産者の後継候補者7人を対象として梨塾が開催された。今回は第5回目で、今年度の最終回となる。講義では、平成31年産に向けた土づくりと肥培管理、GAPの推進、経営に関する分析と目標設定及び簿記記帳について学習した。講義後、塾の効果測定と次年度への反映のためアンケートの記入後、修了式が開催され、修了証の授与と関係機関から激励の言葉が贈られた。アンケートの結果では、梨塾の内容は概ね好評で、関係機関は次年度の梨塾の開催と後継者育成に手応えを感じている。次年度は、ステップアップした内容で梨塾を継続開催する予定である。

農業普及課は、梨塾全般について指導力を発揮し、室内講義及び現地実習での指導と情報提供並びに関係機関との連絡調整を行い、梨塾の円滑な活動を支援した。



【修了式:全員集合でパチリ】

多様な担い手づくり

■西濃青年農業士会 経営能力の向上を目指して～研修会を開催～

西濃青年農業士会は、1月16日に経営をテーマにした「平成30年度西濃青年農業士研修会－事業継承と補助金について－」を開催した。講師には、岐阜県農業会議の派遣事業を活用し、農業経営改善スペシャリストを招いた。内容は、経営の大黒柱となりつつある青年農業士にとって関心の高いもので、法人化や税金、補助金の話題では質問も多くあった。

農業普及課は青年農業士の意見・要望を聞いた上で研修会をコーディネートし、講師派遣等開催支援した。



【研修の様子】

■西濃ブロック女性農業経営アドバイザー 農村女性出張講座

西濃ブロック女性農業経営アドバイザーは、平成30年度西濃地区農村女性出張講座を1月29日に実施した。大倉美佐子氏を講師に招き、トマトを利用した農産加工実習として「トマトカレー」「トマトソースを使ったピザ」「トマトゼリー」「トマトの卵炒め」の作り方を学んだ。完成した料理を食べながら、次年度西濃ブロックで開催されるGLAMA研修会について視察研修や発表内容等の検討を行った。

農業普及課は研修会開催に向けての支援を行った。



【調理実習の様子】

■西濃ブロック女性農業経営アドバイザー 愛西市との交流会

西濃ブロック女性農業経営アドバイザーと愛西市農村生活アドバイザーとの交流会が、1月18日、愛西市立田体育館調理室で行われた。愛西市は西濃地域と隣接しているが、農業に関わる女性の交流が少ないとの声があり、開催する運びとなった。



【挨拶に立つ大倉会長】

今回は愛西市で行われた特産品（レンコン）の料理研修会に参加させていただき、完成した料理を囲んで両地域における日頃のアドバイザー活動についての意見交換を行った。

農業普及課は交流会開催に向けての活動支援を行った。

売れるブランドづくり

■いちご 岐阜県いちご共進会地方審査を実施

西濃農林事務所は1月16、18日に、第44回岐阜県いちご共進会の地方審査を実施した。西濃地域の地方審査推薦者は29戸あり、2日間では場審査を行った。本年産は頂花房と第1腋果房間が連続したことによる成り疲れと、年末年始の低温傾向もあって草勢の維持に苦慮したが、推薦者はいずれも適切な栽培管理により生育を確保していた。

なお、12月までの西濃地域のいちご出荷量累計は前年比134%、単価は1,653円/kgで前年比95%である。ハダニ類については昨年より少なめであるが、灰色かび病の発生が目立つため、一番果の収穫終了後は果梗の除去と下葉の整理徹底を農業普及課では呼び掛けている。



【いちごハウス内での意見交換の様子】

■下宮青果部会協議会 ごうど下宮GAP組織が県GAP確認申請

神戸町下宮青果部会協議会では、今までの下宮版独自GAPではなく認証GAPへの取り組みを強化するため「ごうど下宮GAP組織」を立ち上げ、活動を開始している。

今年度中に岐阜県GAP確認制度の認証取得を目指す第1グループは、昨年末までの県GAP農場評価シートに基づく自己審査、内部検査、改善事項の検討を踏まえ、今月、県GAP確認申請を行った（10人、9.8ha、品目：小松菜、水菜、ゴーヤ）。次年度以降に取得をめざす第2グループは、第2回の勉強会を1月8日に行い、農場評価シートのNo.11～33について協議した。また、次月の勉強会までに肥料・農薬の在庫管理を実施し、結果を持ち寄ることにした。

農業普及課は勉強会での農場評価シート等の説明、質疑対応や助言、内部検査での支援を行った。



【農場での内部検査】

■きゅうり 海津胡瓜部会半促成作型の出荷が始まる

JAにしみの海津胡瓜部会の半促成作型の定植は、1月中旬で終了した。本年は比較的高温で推移し生育も順調であり、半促成の出荷は1月上旬より順次開始されている。施設内は例年より乾燥気味となっており、うどんこ病の発生が認められ、農業普及課より巡回時に病害防除について指導を実施している。

抑制作型で多発したきゅうり黄化えそ病については、半促成栽培でも既に発生が認められる。媒介虫であるアザミウマ類の防除及び発病株の除去について指導を行っている。



【胡瓜の生育状況を確認】